

令和7年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- ・「学ぶ楽しさ」一人ひとりの力に合わせて、「丁寧でわかる授業」を行い、学ぶ楽しさを伝える。
(1)主体的な学びによる基礎学力の定着 (2)学ぶ意欲の喚起 (3)学びを深める取組の充実
- ・「自分を創る」様々な活動を通して、自分の可能性を見いだす手伝いをし、自分の未来を創造させる。
(1)自ら考え行動する態度の育成
(2)主体的・協働的な学びの環境整備
(3)生徒の適性、希望に応じた進路実現
- ・「共に学び、共に生きる」他者との積極的な関わり合いの中で、共に学び、助け合って生きる社会性を育てる
(1)共に学ぶ集団づくり (2)共に成長する環境づくり (3)地域と共に歩む学校づくり

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	① 最新情報を伝える広報活動の推進	A	松高だよりやHP、広報紙に加え、防災だよりを発行し、広報活動を活発に行った。さらに、eメッセージで保護者と情報共有し、本校の教育活動の理解促進に努め、ある程度の成果が得られた。	A	A
	② 各種式典の円滑な運営	B	前年度の反省を踏まえ、変更点を早めに先生方へ伝えることで概ね円滑な運営ができた。一方で、職員数の少なさや当日不在による直前変更もあり、負担が偏らないよう全体で確認する必要性を感じている。		
	③ PTA活動の活性化と同窓会の円滑な運営	B	・今年度はPTA役員の確保が難しく、役員会も欠席者が目立った。やれる範囲で進める方針はよいが、何らかの手立てが必要だと感じている。 ・今年度の同窓会総会の出席状況から、本部役員と当番役員との間に隔たりがあることを、少しずつ理解してもらう必要があると感じている。		
	④ 朝読書の促進と読書活動・学習支援の充実	A	年度初めに朝の読書推進委員会を開催し、先生方と共通理解を持って取り組むことができた。静かな時間を通じて読書習慣のない生徒にも良い影響があると考え、引き続き協力をお願いしたい。		
	⑤ 実践的な防災活動の推進	A	昨年度の反省を踏まえ、防災だよりの発行とeメッセージの活用で生徒・保護者と情報共有ができた。大きな取り組みではないが、避難訓練や研修会を継続し、防災意識を高める工夫を今後も続けたい。		
	⑥ 奨学金に関する、より迅速で丁寧な情報提供	A	さまざまな事情のある生徒もいたが、担当者の働きかけにより、生徒や保護者の理解を得ながら円滑に手続きを進めることができた。次年度も協力体制のもと説明会等を実施し、対応を進めたい。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教務関係	① 学力の基礎・基本の育成 (学力の基礎の育成・家庭学習の習慣化・学習環境の整備)	B	シラバスの形式を一部変更し生徒が見やすくなりましたが、全ての授業の最初で説明してもらっており、生徒の授業に対する見通しを立てるために活用されている。 今年度は基礎力診断テストの振り返りの時間を実施して有効活用をはかることができた。 教室環境のUD化を継続的に実施できている。	A	A
	② わかる授業の実践(授業研究の推進・授業力向上の推進)	B	UDLに関する互見授業や授業公開、県外視察の対応や、公開授業、校内研修により各教員が自ら指導法を検討する機会が多く得られたと考えられる。 授業での学校図書館の積極的な活用も見られていた。 授業時数の確保も先生方の協力により円滑に進められた。		
	③ 学習指導要領実施による授業評価や生徒の現状に即した内規・規定等の適切な運用	B	学習指導要領実施から3年が経過し、本来であればカリキュラムの見直しが必要になってくるところであるが、本校は閉校を控えていることから、閉校に向けたカリキュラムの検証を本年度は行った。		
	④ ICTの活用の推進	B	ICTを活用した授業や調査など本校におけるICTの活用場面は多くなっている。 オンラインを活用した教室に入れない生徒に対する指導を円滑に行うことができている。		
	⑤ 教務支援・校務支援システム、採点ナビの活用推進	A	教務支援・校務支援システムによる成績処理等の校務運営は円滑に進められた。 採点ナビの使用に関してはほぼ全ての教員が1度は活用できている。		
	⑥ 学校ホームページの適切な運用・更新	A	円滑な運営ができている。情報発信のタイミングも例年より早くなった。		
	⑦ 教務保存資料の整理	B	保存年限を過ぎた資料の整理を実施しているが、もう少しかかる見込みである。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導関係	① 社会生活秩序の涵養	B	身だしなみ指導、生徒会による呼びかけにより、服装、頭髪に関しては規範意識は高まっている。しかし、SNSの利用に関しては問題意識が低く、講習や考える機会などを増やしたい。	B	B
	② 主体的活動の推進と個性の伸長	B	SSTがLHRの充実、学校行事の効果的な活用に寄与している。しかし、SST以外での活動、言動に問題がある。SSTの活動をさらに深化し応用力を高める活動に移行していきたい。		
	③ 安全教育の推進と意識の高揚を図る	B	各種講話によって意識の変化は見られた。登下校の問題は少なくなってきた。昇降口の施錠については年度初めに徹底できなかった。自転車通学者に対してヘルメットの利用を促すことがあまりできなかった。入学説明時、入学式後などに説明を行い、協力を依頼する。		
	④ 関係諸機関との連携・強化	B	SC、SSWとの連携、情報の共有は問題なく進める事ができた。行事で地域行事への参加、警察との連携等は問題なく行えた。しかし、地域の青少年指導については参加時期、指導内容について本校の現状と合わない箇所があり、協力体制が難しかった。		
	⑤ 校内支援体制の明確化	B	学年と生徒部の連携がスムーズにいかないことがあった。後手になったケースがあった。早めの連携がとれるような仕組みが必要。学年から生徒指導部へ支援なのか、指導なのかといった連携のとり方から実践までのフローチャートを作る。		
	⑥ 整備された環境の維持	B	概ね清掃が行き届き、維持されていると思われるが、生徒数減少でも分担区に生徒を配置することができるよう分担区等見直しを行う。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導関係	① 規律ある生活と先を見通す力の育成	B	インターンシップや合同企業説明会などの体験を通して一定の成果をあげることができたと思う	A	A
	② 志教育計画に基づく、3年間を見通した体系的な進路体制の構築	A	おおさき産業フェアへの参加や合同企業説明会の本校実施、外部講師による指導などでの生徒の取り組みは概ね良好に感じた。一定の意識改革に貢献できたと思う。		
	③ 生徒全員の進路希望の実現	A	就業のイメージをつかむためのガイダンスを各学年で実施した。1・2年次から職種や業種などの仕事について学ぶ機会を作ることができた。3年生の進路希望の実現については、概ね支援ができた。生徒の頑張りもあり、一社目の合格率が高かった。		
	④ 進路先との連携を密にし、定着に向けた細やかな指導	B	一定数の就職者の動向を把握することはできたが、多忙の時期と重なったため、徹底するには至らなかった。		
	⑤ 2・3学年保護者進路説明会の実施、HPでの情報発信	B	2・3年次に、生徒保護者進路説明会を行うことで、保護者にこれからの見通しをもたせ、親子の話し合いのきっかけとした。進路だよりの発行を通じて、情報の発信を積極的に行った。		

事務関係	① 迅速かつ適正な会計処理の推進	B	学校徴収金会計については、年度当初の職員会議及び転入者オリエンテーションにおいて「学校徴収金取扱マニュアル」に基づいた会計処理について全教職員に周知するとともに、以後の職員会議においても事務処理上の留意事項について説明するなどして適正な会計処理の推進に努めた。	A	A
	② 学校施設、設備の充実と適正な維持管理の徹底	A	安全点検等により発覚した修繕箇所等については、可能な限り早期に対応することができた。また、ここ何年か設備の点検業者から更新・修繕等が望ましいと言われていた消防設備関係の更新工事を行うことができたほか、電気設備関係の修繕工事も着手することになった。		
	③ 生徒・保護者への的確な対応を行うための情報共有	B	就学支援金等の各種手続きを円滑に進めるため、各クラスの担当教員等と生徒家族の状況等について必要に応じて情報共有し、生徒・保護者に対する的確な対応を行うことができた。		
評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
家政科関係	① 基礎・基本の充実と技術の確立	B	1年生は意欲的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けようと努力した。今年度のアンケート結果から身についていると感じている生徒が減少していることから、検定での資格取得が生徒の自信となるようにより一層丁寧な指導をしていきたい。	A	A
	② 発展的な学習活動の推進	A	1年施設見学では、熱心に話を聞き、内容をレポートや絵、スライドにまとめることができた。各コースでは外部講師による指導や保育実習等、実践的な学習を行うことができた。また1年生の家庭クラブホームプロジェクト研究発表が県代表となり、東北大会出場を果たした。昨年度できなかった調理コースの外部講師による授業を企画・実施することができた。		
	③ 地域施設・外部企業との連携による人間性の伸長	A	あおぞら園・社会福祉協議会などと連携し、外部の方々と対面して様々な学習に取り組むことができた。昨年度、地域の行事である「ボラボー松山」ではファッションショーと、2年調理コースの企画したマルフジさんとのコラボ弁当を販売することができ、生徒達は達成感を感じることができた。今年度も参加の方向で準備していきたい。		